



材木屋さんが作る ダイニングテーブル

～丸太からテーブルになるまでの製作工程～

丸太の皮の部分の形(耳)を自然のまま残した
ヒノキのダイニングテーブルです。

1 原木市場から
三重県産の丸太を買付



熟練した職人の目利きにより選定した丸太を原木市場の競りで買付し、工場製材します。



緻密な年輪の丸太を選びます。木目が細かくてきれいです。

2 丸太を製材する



ヒノキの丸太からテーブルの天板となる厚さ8cmの板を取ります。最終製品の寸法より少し大きく製材しています。

3 木材乾燥機で
乾燥させる



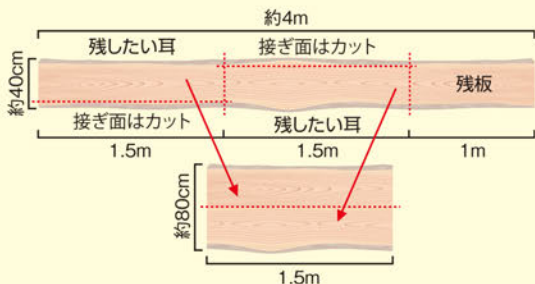
板材を乾燥させるために1本1本隙間を空けて積み上げ(棧積み)ます。そのあと木材乾燥機に入れて十分に乾燥させます。乾燥させることで割れや反り、縮みを起こりにくくします。

4 天板選び



乾燥を終え、長さ4m・幅40cmほどの天板ができあがりました。ここまでの幅になるまでに60～80年ほどかかるそうです。

5 削る・接ぎ合わせる



天板を選んだら、加工していきます。4mの天板をテーブルの長さにカットし、片側の耳を残して接ぎ面をカットします。板同士を平行に接ぎ合わせます。

6 仕上げに磨いて
塗装をする



ベルトサンダーで細かいキズをとってなめらかに仕上げ、最後に自然塗料を塗ってテーブルの天板が完成です。

7 お客さまに納品・
組み立てる



天板をお客さまのご自宅に納品したときに鉄製(アイアン)の脚を取り付けて完成です。脚はアイアンまたは木から選べます。

◀「ヒノキとアイアンのダイニングテーブル」
長さ1.5m×幅80cm
金額:13万円程度～
※使用する板によって金額は異なります



材木屋さんが作る家具

BROOKの代表の坂さんは、祖父が昭和25年に創業した材木会社、三栄林産の三代目として生まれました。木に携わる者として、地域材をたくさんの人に使ってもらいたいという想いから、2011年にインテリアアショップとカフェの複合施設、BROOKをオープンしました。

BROOKでは三重県産の木、主にスギ・ヒノキを使用してオリジナルのオーダー家具製作をしています。代表的な家具のひとつにダイニングテーブルがあります。一本の丸太から伐り出した無垢材を使用し、木目がデザインの一部となっていて木の質感が活かされています。BROOKのこだわりは「材木

オーダー家具の良さ

決められることです。家や部屋に合わせ

たサイズや形の家具を手に入れることができます。BROOKではこれまでにさまざまなオーダーに応えてきました。子どものために絵本に登場する乗り物を作ってほしい、結婚記念日に妻へ椅子の贈り物をした、どれも誰かのために特別に作られた、とても思い入れのあるものです。

また、ダイニングテーブルを再び加工して小さい座卓に作り変えることもできます。ライフスタイルに合わせて家具の形を変えながら、長く使い続けていくことができるのも魅力のひとつです。

屋が作る家具、というところ。材料になる丸太は職人が一本ずつ見極めて製材し、ひとつひとつ丁寧に手作りされたものです。材木屋だからこそ、県産材を手に入れることができ、製材・加工する工場が自社グループにすべて揃っているため確かなものが提供できます。

坂さん「こうした家具は一生もの。想いを馳せながら子や孫にまで使い続けてもらえたらと思うと、この仕事に誇りを持つてやり続けようと思います」

木の製品は室内であれば100年以上もつものだと思います。経年変化で風合いが増してくるといふ点では、使うほどに価値が上がっていくものであり、また反対にカンナで削れば、新品のように生まれ変わります。

オーダー家具①
▼ディスプレイシェルフ(スギ)



オーダー家具②
▼オーディオボード(スギ)



オーダー家具③
▼奥様へ椅子のプレゼント(ヒノキ)



実際に奥様に座ってもらい、希望を伺って製作しました。

▼カフェテーブル(スギ)



現在、BROOKのカフェで使用されるテーブルは、もとは3mの長いテーブルでした。お店のリニューアル時に、1mのテーブル3台に加工したそうです。